キャラクター名: Curio Intelle

プレイヤー名:

シンドローム	ハヌマーン ソラリス	ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	情報屋
オプショナル		年齢		性別	
覚醒	生誕	衝動	飢餓	初期侵食率	36 %
出自	半身	経験	捕獲対象	邂逅	良い人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	1	1	3			5
精神	2	0	0			2
社会	4	0	0			4

HP	24
行動値	12
(非装備時)	12
戦闘移動	17
全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	5		ＲＣ			交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃	射撃	5r+4	0	3		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
峰崎鷹司	P いい人	N		
もう一人自分	P 片割れ	N		
研究者	P	N		
伊嶋	P 好奇心	N 不信感		
ﾁﾝﾋﾟﾗ（まなべまもる）	P 執着	N 不快感		
白金明日香	P 尽力	N 偏愛		
	P	N		

最大財産P:	8	残り財産P：	1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセイトレイト[侵2]	2		M					
効果：	クリティカル値を-[SL]							
罪人の枷[侵3]	4		M	武器	単体	対決		
効果：	ドッジ-[SL*2]							
ヒューマンズネイバー	1		常時	至近	自身	自動	RB	
効果：	人になる							
オリジン：レジェ[侵2]	1		m	至近	自身	自動	RB	
効果：	シーン中精神+[SL*2]							
腐食の指先[侵2]	3		M	武器	単体	対決		
効果：	装甲値-[LV*5]							
電光石火[侵3]	1	[HP]1d	M/R		自身			
効果：	【肉体/感覚】のダイスを+[LV+1]							
軽功	★							
効果：	どこでも歩けるよ							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

目覚めた時から、私は知的欲求に満ちていた。
周りは知らないものばかりで、知らなければならないと強く、強く、強く感じた。
それは初めて"音"を聞いたときもそうだった。
一番初めに聞いた"音"は――そう、「"ネゲレイドビーイング"がいたぞ」だったな。
振り返るとそこには何人かの研究者がいた。といっても研究者という存在は後から知ったのだが。私は人のようなそれで、輪郭はぼやけ、境界があやふやだった。彼らの視線は揺らぐ私を刺し、そしてもう一度彼らの中の誰かが、ネゲレイドビーイングだ、と言った。彼は隣の研究者を見ると、隣の彼はうなずいた。私にはその動作に完全な意味を見出せなかったが一つだけ分かった。
私は自身がネゲレイドビーイングだと呼ばれるものだという事を。
なるほど、ネゲレイドビーイング。私は、ネゲレイドビーイング。なら彼らは？
知りたい。知りたい。知るにはどうしたらいい？
私に出来るのは近づいてみることだった。
――近づくな！誰かが言った。
私に分かるはずもない。
もう一歩近づく。
もう一歩。
一歩。
そして。
科学者は私に"力"を使った。避ける――という発想さえなかった私は吹き飛ばされ、転げ、そして止まった。
横たわりながらも私は聴いた。知的好奇心を妨げるような何かが起こったと即座に本能が囁いた。
どうやら彼らは私に動いて欲しくないらしい。
それは困る！私には近づくしか疑問を解決する手段がないのに！
それは不快感になり、次の時には彼らには退場してもらうべきだという衝動が溢れた。